

令和5年度 物性研究所一般公開の報告

一般公開委員会委員長 杉野 修

本年度の一般公開は、「探し出せ! 「もの」の中のすごいもの」のキャッチコピーのもと、2023年10月27日(金)、28日(土)に行われた。昨年度までの3年間はオンラ



図1: 本館入り口付近の賑わい

イン開催であったが、今年度は現地開催で行われ、久々に最先端の研究の現場をご覧いただく絶好の機会となった。天候にも恵まれ、27日1,205人、28日2,386人、駅前ブ

ース32人(2日間)、計3,623人の方々にご来場いただき、4年前同様の大盛況となった(図1)。アフターコロナの時期を迎えたものの、マスクを着用、随所にアルコール消毒スプレーを配置しての一般公開となった。今回はイベント数が例年より少い10件となったため、密を避けて開催することができた。展示はB棟、C棟、K棟、D棟、本館6階の順に回れるように配置され、一通り回ってスタンプを集めてクイズに答えれば、物性研オリジナルマグネットがもらえる(図2)。このクイズラリーは特に盛況で、毎回来場してマグネットを収集している来場者も何人か見受けられた。今年はこの色が欲しいというリクエストもあった。

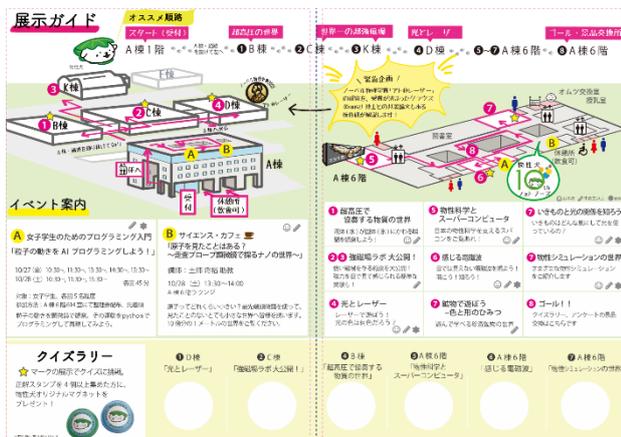


図2: 物性研展示のパンフレット

サイエンスカフェはA棟6Fラウンジで土曜日13:30~14:00に行われ、長谷川研の土師助教が興味深い講演を行った。「原子を見たことはある?~走査プローブ顕微鏡で探るナノの世界~」という演題で、原子ってどれくらい小さいの?最先端顕微鏡を使って見える10億分の1メートルの世界はどのようなものなの?という疑問に答えていた(図3)。



図3: サイエンスカフェの様子(左)とパンフレット(右)。

イベントとしてはこの他に、林研究室の林教授による「女子学生のためのプログラミング入門」が行われた。粒子の動きを顕微鏡で観察して、その運動をpythonでプログラミングして再現するという企画であり、女子学生を対象とした新たな試みであった。本企画は、同時開催された「女子中高生向けイベント「未来をのぞこう!」」と連携して行われたものである。



図4: 女子学生のためのプログラミング入門

その間、上記イベントを脇から盛り上げる物性犬とチーバ君の姿があった(図5)。特大の物性犬は、公式キャラクター10周年を祝う飾りを身にまとい、そのかわいらしい姿は、お子様だけでなく同伴の保護者にも人気があった。



各研究室から出展されている企画を回る 図5: 公式キャラクター10周年の飾りを身に纏って一般公開を祝う物性犬。チーバ君と共に。

と、そこからはコロナ禍以前の賑わいを思い出すことができ、平時であることの重要性を改めて肌で感じるようになった。以下、各企画に関して箇条書きで紹介する(図7-9)。

- ① 「超高压で協奏する物質の世界」は上床研究室の企画であり、液体(水)が固体(氷)にかわる瞬間の観察が行われた。
- ②-③ 「強磁場ラボ大公開!」は国際超強磁場科学研究施設の企画であり、強い磁場を作る施設が公開され、磁力を目で見て感じられる簡単な実験が行われた。
- ④ 「光とレーザー」は極限コヒーレント光科学研究センターの企画であり、レーザーで遊びながら学べる実験が展示された。
- ⑤ 「物性科学とスーパーコンピュータ」は物質設計評価施設大型計算機室の企画であり、日本の物性

科学を支えるスパコンの轟音に驚かされる展示であった。

- ⑥ 「感じる電磁波」は軌道放射物性研究施設の企画であり、目では見えない電磁波を見たり、聞いたりしながら学べる展示であった。
- ⑦ 「鉱物で遊ぼう-色と形のひみつ」は山浦研究室の企画であり、遊んで学べる珍奇鉱物の世界を見ることができた。
- ⑧ 「いきものと光の関係を知ろう」は井上研究室の企画であり、いきものはどんな風にして光を使っているかを学べる展示であった。
- ⑨ 「物性シミュレーションの世界」は物性理論研究部門の企画であり、さまざまな物性シミュレーションが紹介された。

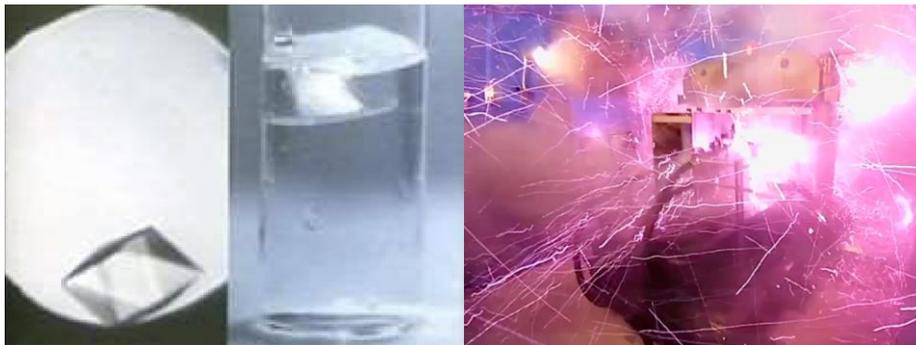


図6: 企画①～③。①超高压で協奏する物質の世界(左)、②③強磁場ラボ大公開!(右)。

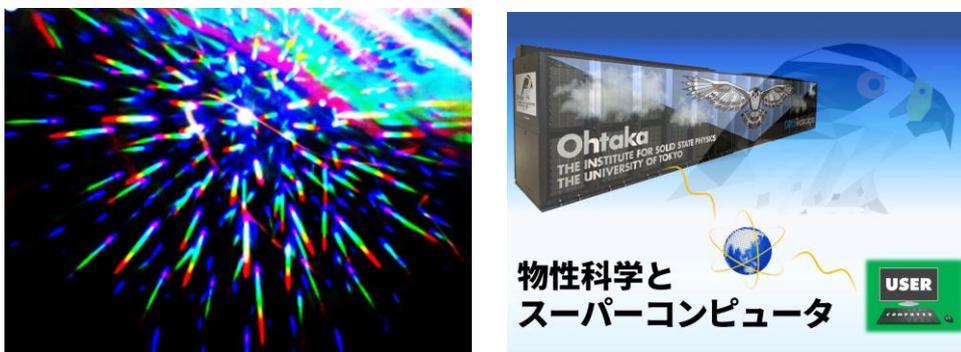


図7: 企画④～⑤。④光とレーザー(左)、⑤物性科学とスーパーコンピュータ(右)。

